

平成25年度研究成果報告書《平成25年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	27	都道府県・指定都市名	大阪府
学校名 <small>ふりがな</small> (生徒数)	おおさかふりつせんりこうとうがっこう 大阪府立千里高等学校 911人 (平成26年3月1日現在)		

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：〒565-0861 大阪府吹田市高野台 2-17-1

電話番号：06-6871-0050

研究内容等を掲載しているウェブサイトの URL： <http://www.osaka-c.ed.jp/senri/>

【研究成果のポイント】

- 研究課題番号：4 高等学校
- 研究対象教科等：総合的な学習 教科「探究」
- 研究のキーワード：思考支援ツール、課題研究、探究、英語、国際
- 研究成果のポイント：
 - 課題研究『探究』における取組
 - 英語での発信における活用
 - アンケートによる学習効果の調査
 - 教員研修の取組

【研究の目的、研究内容】

(1) 研究主題

総合的な学習の時間『探究』（課題研究）における「思考支援ツール」を活用した教材およびカリキュラム開発の研究

(2) 研究主題設定の理由

国際化、情報化の進展に対応し、コミュニケーションツールとして外国語と情報機器を活用し、様々な分野で活躍できる人材育成をめざす本校は、『探究』において各生徒が個々の興味関心に基づきテーマ設定し、自ら調べ、考えをまとめ、論文作成及びプレゼンテーションを行っている。

「思考支援ツール」を活用することで思考を深め、『探究』での課題研究のテーマ設定や研究における分析の観点を多様にすることをめざす。また他教科との連携により生ずる学習効果を期待し、教材・カリキュラムを開発することにより、本校が目標に掲げる「専門的な学びを深化させる意欲を持ち、探究心を持つ生徒の育成」を図り、その効果を検証したい。

(3) 研究体制

《学校の運営組織》

- 「探究担当者会議」に「探究推進ワーキングチーム」（研究開発の中心メンバー）を設置し、研究を進める。

《関係機関との連携》

- 大阪府教育センター・カリキュラム研究室の協力を得る。
- 近隣大学等の教育機関との連携し、サポートを得る。

(4) 1年間の主な取組の経過

平成25年度	第1 Term(4～6月中旬) オリエンテーション（年間予定、選択コース紹介） 探究概論（各分野のガイダンス） 情報技術の習得（各種データ整理・分析実習、思考支援ツールの活用法を学ぶ） 第2 Term(6～9月) コース共通テーマと個人テーマの決定
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

グループセッション等により、個別テーマの明確化を図る。「思考支援ツール」として「ベン図」「Yチャート」「Xチャート」「ボーン図」等を用いる
「世界的視点から見る日本史」では英語でメモを取り、英語でレポートを提出
第3 Term(10～1月)
研究継続と論文作成のために「思考支援ツール」を活用、英語によるプレゼンテーションとディスカッション、各自研究の完成、報告書提出
第4 Term(2～3月)
論文提出、学習発表会「千里フェスタ」(3月19日、20日)での発表(予定)

(5) 具体的な研究内容・方法、研究を進める上での工夫点等

- 『探究』における取組
各講座担当が思考支援ツールを活用した。
使用する思考支援ツールの種類については各講座担当と生徒たちに選ばせた。
- 「世界的視点から見る日本史」における活用
『探究』の講座のひとつである「世界的視点から見る日本史」において、英語による情報発信における情報の収集、整理、発表において思考支援ツールを活用した。
- アンケートによる学習効果の調査
教員へのアンケート及びインタビューによる思考支援ツールの効果の検証
思考支援ツールを使用した講座の担当教員にアンケート及びインタビューを行った。
- 教員研修の取組
『探究』の講座担当者向けに思考支援ツールの使用方法の研修を行った。
校長による「千里高校の未来像を考える」ワークショップにおいて教員全体に思考支援ツールを使い議論した。

【研究成果とその意義等】

(1) 研究成果

- 「思考支援ツール」に対する教員の意識の向上
ブレインストーミングや議論における「思考支援ツール」の有用性の確認
- 「思考支援ツール」に対する生徒の意識の向上
今回一度以上使ったと回答した生徒(160名中40名)の中で思考支援ツールの有用性を認めたものが75%(30名)であった。40名の中にはその有用性に関する質問に回答しなかったものが5名あったので、これを除けば86%。
- 『探究』におけるさらなる「思考支援ツール」の活用への議論
- 英語環境における「思考支援ツール」の有用性の確認
裏表に英語と対応する日本語を書いた付箋をXチャートやフィッシュボーン図に貼って使用した。

(2) 研究成果の意義等

生徒および教員へのアンケート及びインタビューから思考支援ツールが生徒の思考の深化のために有効であることが確認された。また英語による発信のためのツールとしても有効であることが分かった。

(3) 指定期間終了後の取組

思考支援ツールは、授業観察、生徒のプレゼンテーション、生徒および教員へのアンケートからその有効性と可能性が確認されたが、この取組を『探究』だけでなく学校全体のものとする。そのために以下の様な取組を試みたい。

- 思考支援ツールのさらなる活用：思考支援ツールについて更に周知し、より多くの教員に使ってもらう。『探究』以外の様々な教科での活用の可能性を探る。
- 『探究』のシラバスの共通化：思考支援ツールによる生徒の思考の深化を推し進めるために、現在担当が独自に進めている探究の講座のシラバスをある程度共通化する。